

単元名：

「ゴミ箱から世界を見つめる」

(全2時間扱い中 第2時)

授業日時 2019年11月15日(月)第2校時

授業学級 3年2組

授業会場 3年2組教室

授業者

指導者

(1) 主眼 (授業の手立て&ねらい)

分別と日常のつながりを実感できず、何となくごみの分別をおこなっている子ども達が、自分たちが分別した資源ごみがどうすれば資源ごみとして処理してもらえるのかを考える活動を通して、分別されるごみは正しい処理の仕方をしなければ私たちの生活に還元されないということに気づき、分別と日常のつながりを意識しながら、ごみを正しく分別することができるようになる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. 導入(資源ごみとして処理されなかった)	「どうして?!」 「あんなに一生懸命分別したのに…」 「分別って意味なかったの?」 「ごみの出し方がダメなんだよ!」	・資源ごみを取り出し、燃えるゴミだという事実を伝え、ごみの分別の現状を確認する ※分別していることを褒めるが、燃えるゴミということはハッキリと伝える 【資源ごみ】	10
	2. なぜダメだったのか考える	「牛乳パックは洗って開いて乾かさないといけないよ!」 「家では紙は縛ってた」 「燃えるごみで捨てられるなら、もう燃えるごみでいいんじゃないの?」	・ごみの分別だけでなく、ごみの出し方が大切だということに子ども達のなかで気づいてもらうようにする 「なんで、資源ごみじゃなくて、燃えるごみになってしまったんだろう?」	
	3. 学習問題の提示	「どうやったらちゃんと捨ててもらえるんだろう?」 「紙以外にもごみの出し方がうんじゃない」 「先生知ってるよ!汚いごみは燃えるごみだよ。」	・今日の授業でやることを口頭で確認する 「今日は、ごみの出し方をみんなで調べてみよう」 ※資料(ごみの出し方)を配布 【資料(ごみの出し方)】	
	【学習問題】 どうすれば資源ごみとして捨ててもらえるのだろうか?			
	【学習課題】 ごみの出し方の資料を見て、正しい分別方法を調べてみよう			

展開	4. ゴミの出し方を調べ、自分たちが分別した資源ごみのどこが悪かったか確認する	「牛パックは開かないと！」 「紙と牛パックは別で分けないと」 「紙は縛って捨てる必要があるよ」 「プラごみってストローだめなんだね」 「トイレットペーパーになってるのは知ってる！牛パック6個でトイレットペーパー一つだよ」	・実際に自分たちの資源ごみと照らし合わせながら、ごみの出し方を確認するようにする ※牛乳パックのリサイクルとの関係を説明 ※資源ごみと照らし合わせる 【資源ごみ、資料、トイレットペーパー、スライド】	15
	5. ゴミ処理の映像から正しく捨てることの大切を考える	「すげえ！ドロドロしてる」 「あんなに紙のなかにゴミがはいってるの?!」 「手作業で分けてたんだ」 「ゴミ収集の人も大変なんだ」 「SDGsだ！」	・ゴミの処理の動画を視聴する中で、ごみが処理されていく過程と間違ったごみがどのような影響を与えるかを考えるようにする ※①古紙の処理動画＝ごみを正しく出さないとリサイクルが大変 ②プラスチックごみの行方＝働く人が大変 【スライド、動画】	10
終末	6. 身近なりサイクル製品を知る ※振り返り記入	「プラスチックのもの周りにたくさんあるね」 「いろはす知ってる！」 「え?!先生が着ていた服もリサイクルでできてるの？」 「ほかにリサイクルものないかな」	・正しく分別された資源がどのような形になって私たちの生活に還元されているか実際に見てもらう ※紙資源…トイレットペーパー、紙袋 プラスチック…ポリバケツ、レジ袋 ペットボトル…服、いろはすを準備して提示する ※服が一番のピークにする 【振り返りシート、上記で挙げたもの】	10

【本時の評価（評価する対象）】

正しく分別していくことへの意識をもつことができるようになっている（振り返りシート）